

動物福祉について



岩手大学 農学部 動物科学科
出口 善隆

1) 歴史

第2次世界大戦後：集約畜産（多頭飼育）の発展

飼育環境の虐待性

薬剤多用による畜産物の安全性への疑問







(野附巖・山本禎紀編. 家畜の管理. 1991)

1964年 ハリソン(英)「アニマル・マシーン」

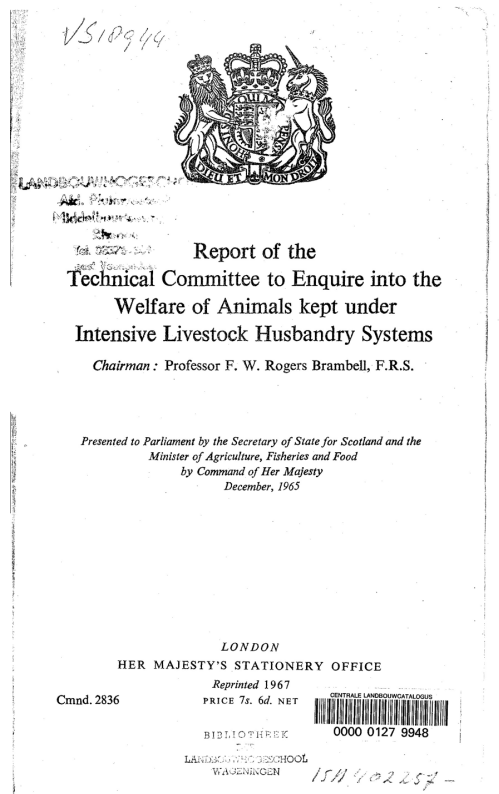
集約家畜を生産物の質と動物虐待という点から批判



「アニマル・マシーン」 ルース・ハリソン著 (1964)
日本語版 (1979)

(<https://www.amazon.co.jp/アニマル・マシーン/dp/B000J8DZ32>より)

1965年 英国政府の諮問を受けて議会に提出された報告書
「集約畜産下でのアニマルウェルフェアに関する
専門委員会報告書」(ブランベルレポート)
虐待防止の飼育法の検討を指示



welfare = wel + fare
望みに沿って 生活する

「集約畜産下でのアニマル・ウェルフェアに関する
専門委員会報告書」(1965)

(<https://edepot.wur.nl/134379>より)

2)「動物福祉」の定義

○ブランベルレポートの定義（欧米の近代的動物福祉運動の発端）

：「動物福祉とは、**肉体的健康**及び**精神的健康**の双方にかかわる
広義な言葉である。したがって、動物福祉は動物自体の構造、
生理および行動から判断する動物自体の心的体験に関する
科学的事実をもとに考慮されなければならない。」

○農用動物福祉審議会：英（1992年）

5つの自由

- ・空腹・渇きからの自由

＝健康と活力を維持させるため、新鮮な水および餌の提供

- ・不快感からの自由

＝庇陰場所や快適な休息場所などの提供も含む
適切な飼育環境の提供

- ・痛み・怪我・病気からの自由

＝予防および的確な診断と迅速な処置

- ・正常行動を発現することの自由

＝十分な空間、適切な刺激、そして仲間との同居

- ・恐怖・苦悩からの自由

＝心理的苦悩を避ける状況および取り扱いの確保

3) イギリスからヨーロッパへ

1993年 EU統合

EUの指令

2007年から 8週齢以降の子牛の単飼禁止

2010年6月までに ブロイラーの最大収容密度が $33\text{kg}/\text{m}^2$ へ制限

2012年から 採卵鶏の慣行ケージ飼育の禁止

2013年から 妊娠ブタの繋留飼育禁止

受胎後4週以降から分娩予定1週間までストール飼育禁止

4) ヨーロッパから世界へ

○国際獣疫事務局：O I E

1924年 世界の動物衛生の向上を目的（1930年日本加盟）

2002年「食品安全」と「動物福祉」が目的に追加

OIEの目的は以下の6つ

1. 世界で発生している動物疾病に関する情報を提供すること。
2. 獣医学的科学情報を収集、分析及び普及すること。
3. 動物疾病の制圧及び根絶に向けて技術的支援及び助言を行うこと。
4. 動物及び動物由来製品の国際貿易に関する衛生基準を策定すること。
5. 各国獣医組織の法制度及び人的資源を向上させること。
6. 動物由来の食品の安全性を確保し、
科学に基づき動物福祉を向上させること。

対象動物の広がり

- ・家畜（ウシ、ブタ、ニワトリなど）
- ・実験動物（ラット、マウスなど）
- ・伴侶動物（イヌ、ネコなど）
- ・展示（動物園）動物
- ・野生動物



5) 動物園の社会的役割

- ・憩いの場
- ・教育・学習の場
- ・調査・研究の場
- ・種の保全の場



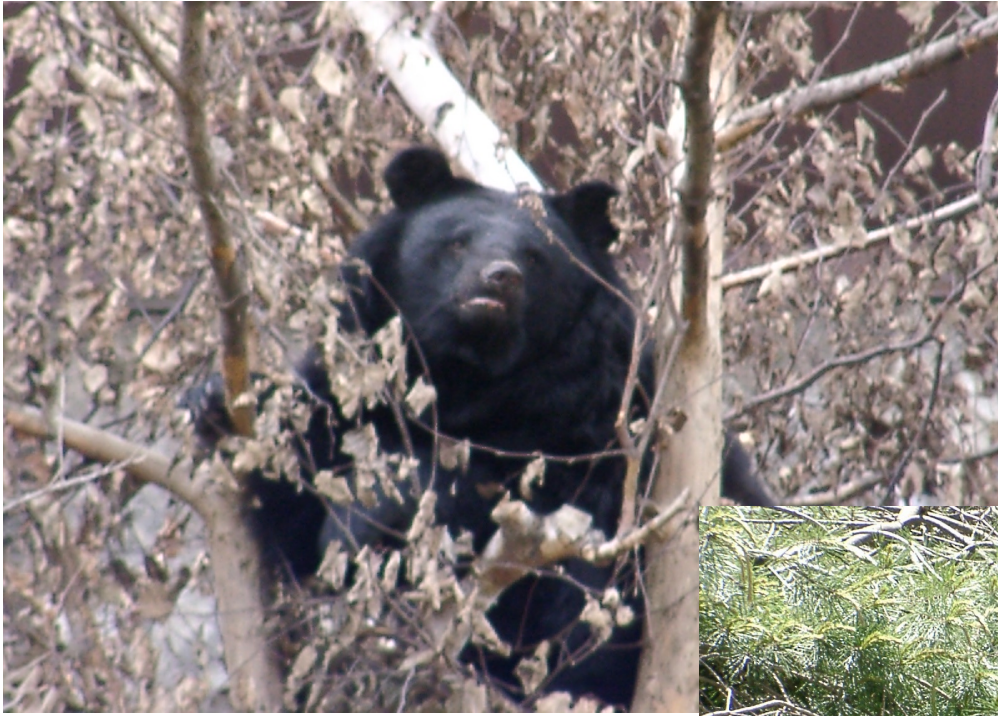
動物園の社会的役割を果たすために、動物福祉が大切



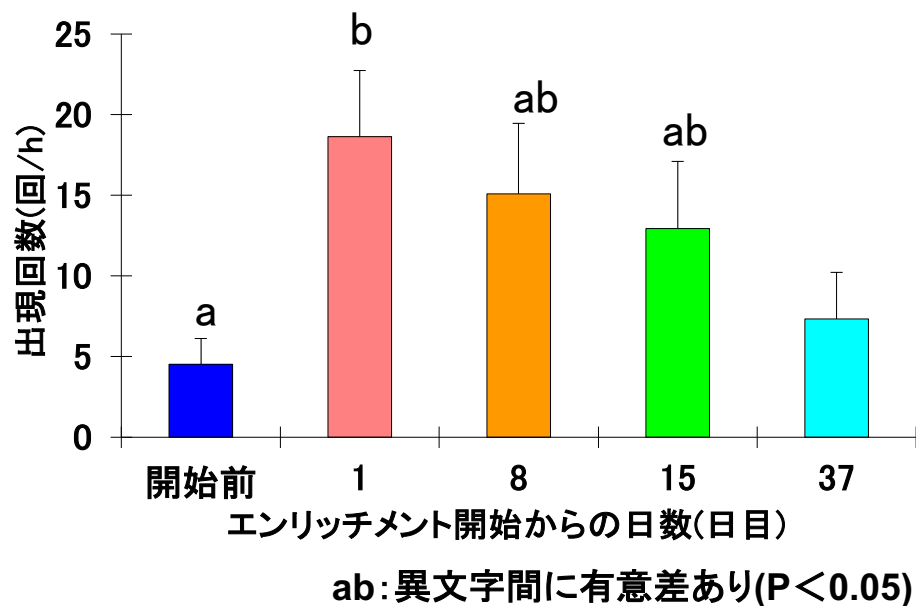
- ・動物飼育施設の改善
 - ・動物管理方法の改善: 環境エンリッチメントなど
 - ・動物病院の充実
- など

盛岡市動物公園と岩手大学との共同研究 「ツキノワグマの環境エンリッチメント研究」

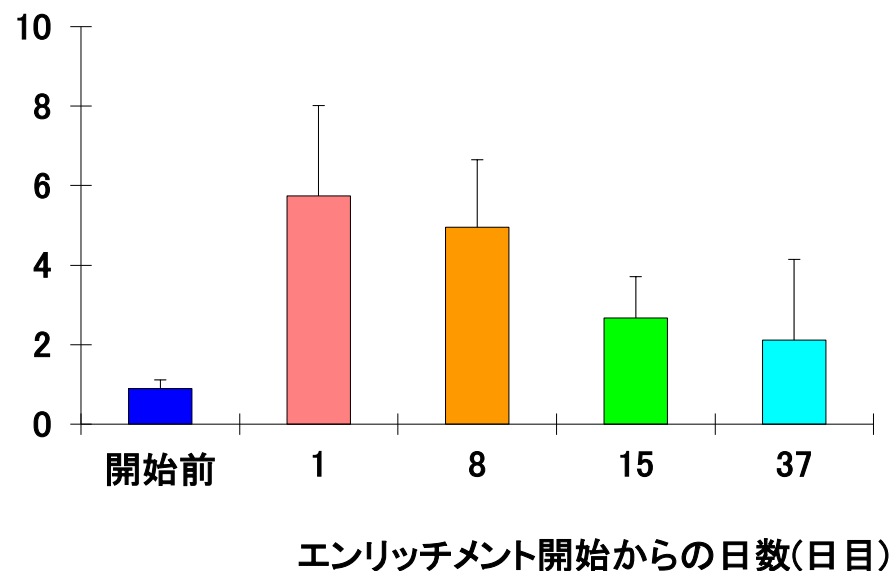




ツキノワグマの行動の出現回数



探査行動



移動

エンリッチメントA

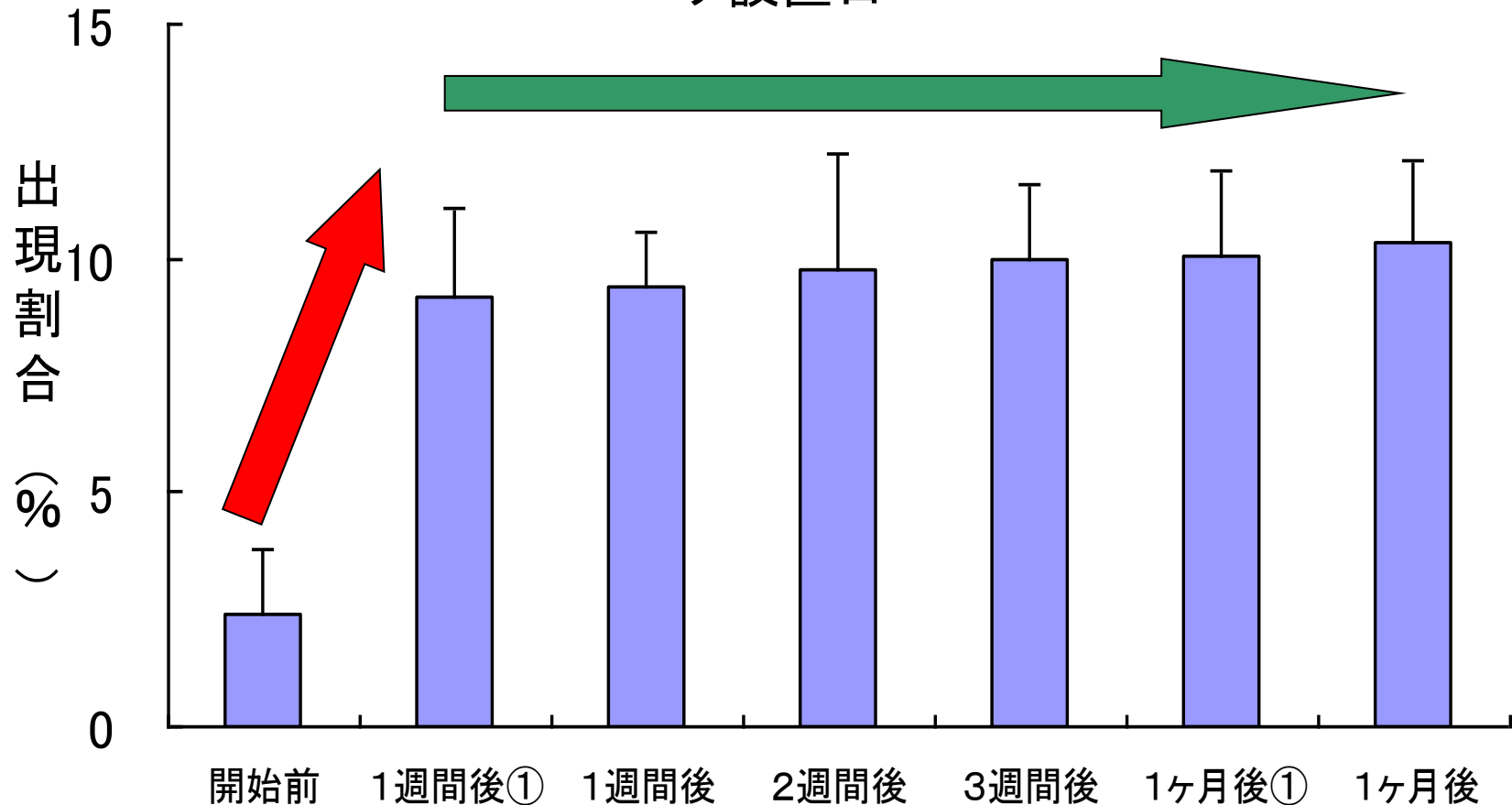


エンリッチメントB



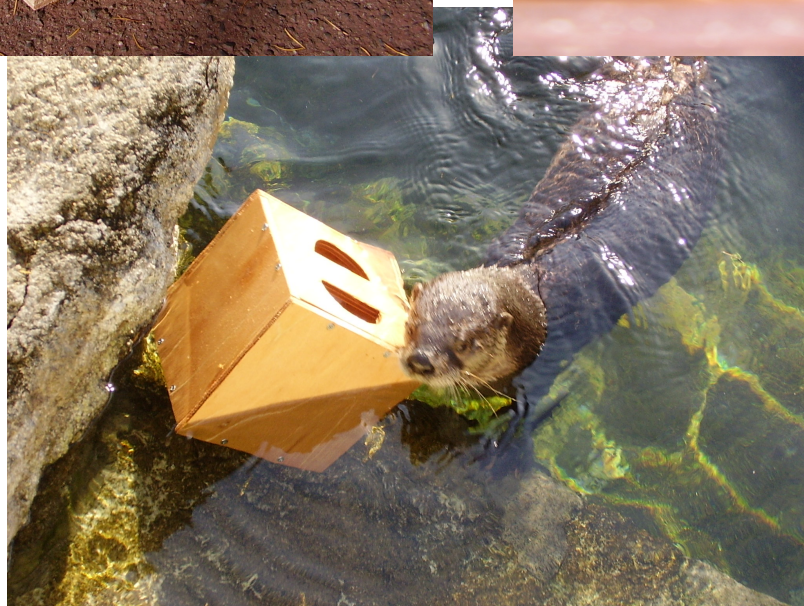
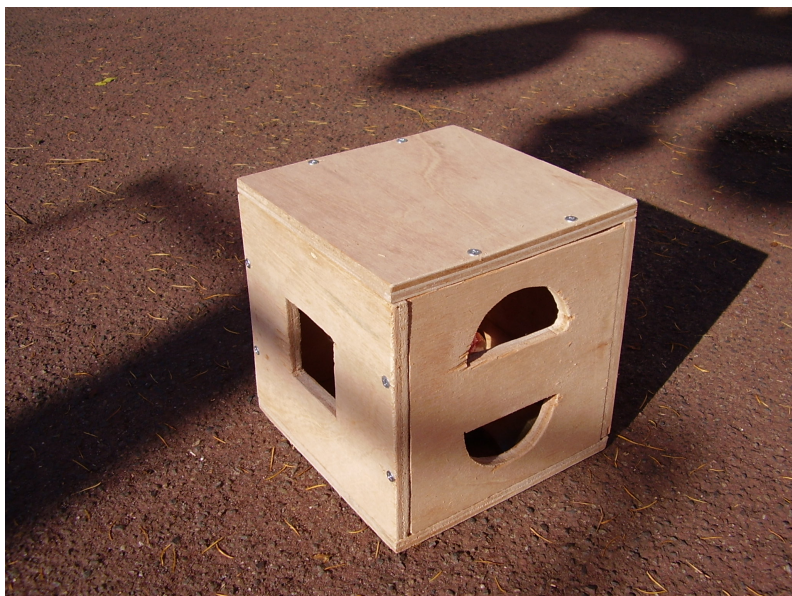
探査行動の出現割合

エサ設置日

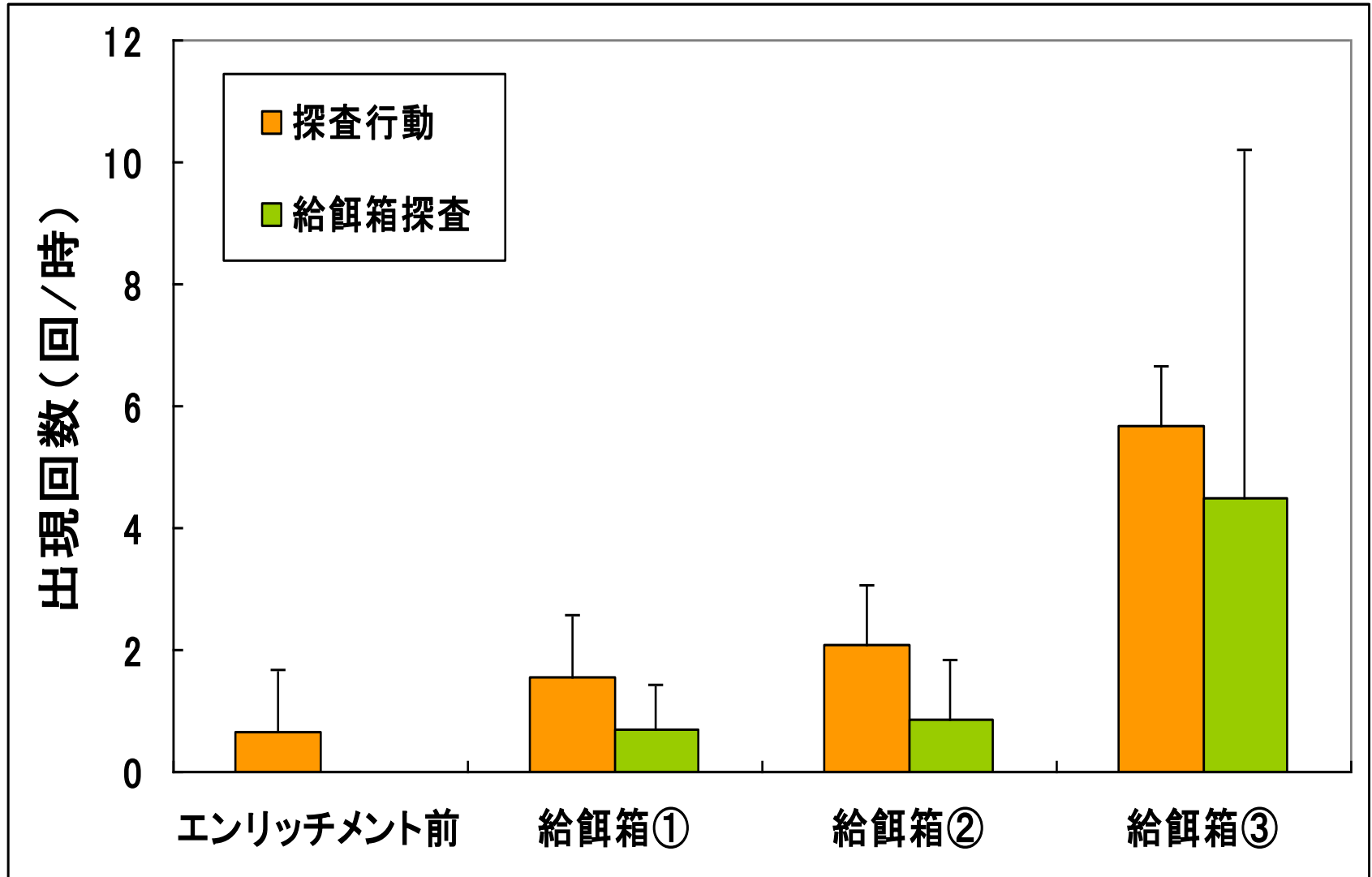


1ヶ月間 ⇒ エンリッチメント効果が持続

「カナダカワウソの環境エンリッチメント研究」



カワウソの探査行動出現回数(回/時)



まとめ

動物の福祉が良いとは、動物の状態が良いということ

主体は動物で、科学的に評価を行う

評価の基本は、5つの自由

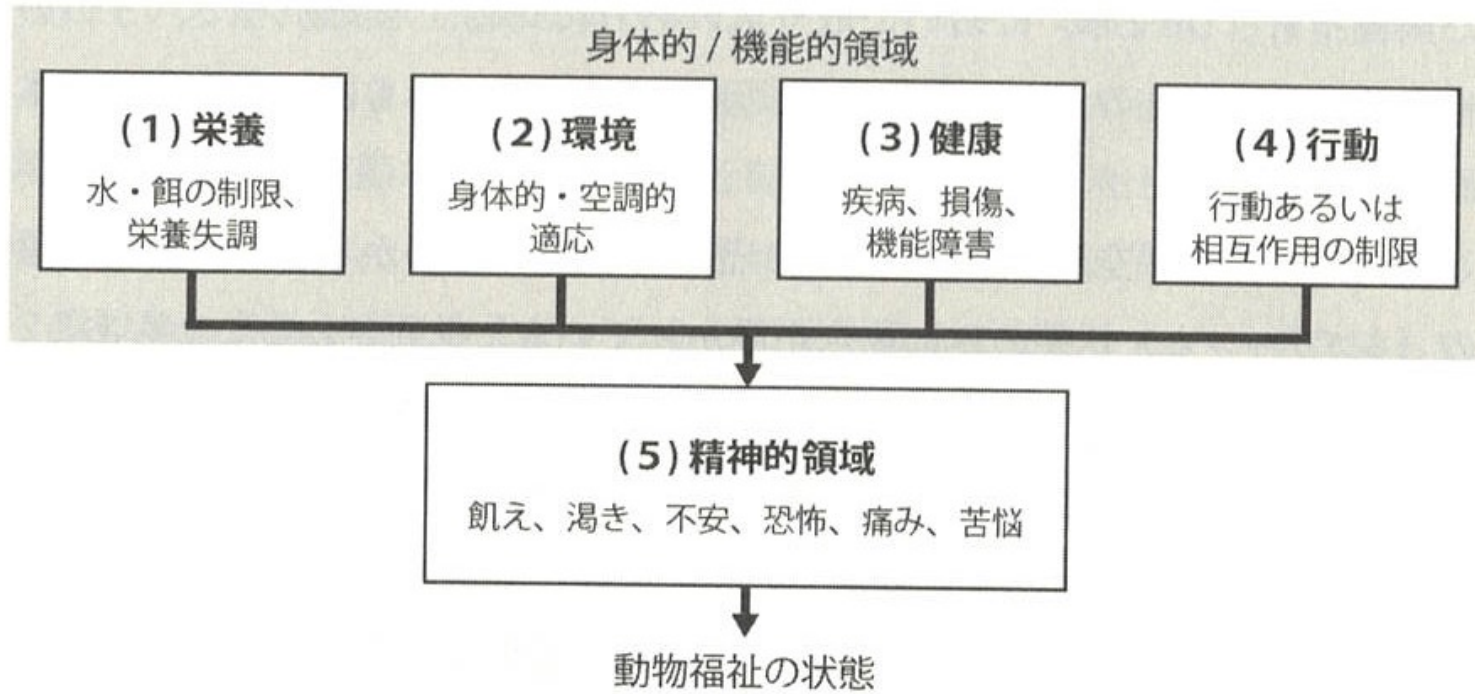


図1 5つの領域の概略図

「動物福祉」と「動物愛護」

動物福祉：動物への修飾語：感受性のある

主体：動物

目的：動物の良い状態

倫理の根拠：功利主義

配慮の方法：科学的、5つの自由、3つのR

動物愛護：動物への修飾語：命ある

主体：人間

目的：気風の招来、情操涵養

倫理の根拠：義務感、共通善

配慮の方法：観念的